



NO.1015  
2015・4・12  
発行所  
日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八西三  
電話四三・四四五八  
F 四三・四四五七



# いっせい地方選挙 いよいよ後半戦!

日本共産党網走市委員会は、現市議の松浦さとし氏、引退する飯田敏勝議員の後継として党・市副委員長のきくち宏氏の両氏を擁立して市議選を戦うことを既に発表していますが、あらためて紹介します。

現職の松浦氏は、4期16年の実績があっても、謙虚で偉ぶらない人柄が信頼を集めています。中学1年の時、一家が離農し、



きくち宏 副委員長



松浦さとし 市議

苦しい生活で進学も断念せざるを得なかった経験が、苦しむ弱い立場の方々のことを「我が事」として奔走する土台を築いたの

です。

今や「議会に無くてはならない人」になった松浦氏を今回も絶対議会に送ると、共産党網走市委員会や後援会の人達が奮闘しています。

一方、新人のきくち宏氏は、党の生活相談室長として、既に市民のくらしの守り手として活躍しています。議会を傍聴し問題点を考え、街頭で政策を語り、市民の要望を伝えるなど、もう議員並みの活動もしています。その活躍ぶりから「並みの新人ではない」と評価する人もいるほどです。

共産党の2議席をなんととしても守らなくてはと、共産党網走市委員会も後援会も必死で頑張っています。

※日本共産党は、定数4減となる議会だからこそ、2議席が重みを増すと市民に支持を訴えています。政策ピラも全戸配布する努力もしています。みなさんのご支援を心から訴えます。

## 菊地ひろし まっしぐら!

いた当時は、178cmだった身長が4cmも低くなったそうです。もらった名刺を見て話を聞いて納得しました。

業務内容「紛争解決手続き代理業務、年金相談、経営相談など」社会保険労務士や行政書士などの資格を取り、毎日の仕事に追われて背中が丸くなり、低くなったそうです。体は見るからに太くなり丸くなりましたが、東京の中小業者や都民の苦しみの軽減のために、彼もまた日本共産党員として奮闘しているとの事でした。

網走初の日本共産党の市会議員になった方の義理の息子でもある彼は「菊地頑張ろうぜ!」の言葉を残し帰っていききました。

## 松浦奮戦メロ

いま、後援会員や支持者のみなさんのところを訪問しています。

ある方は「安倍内閣が集团的自衛権行使容認や特定秘密保護法、さらには、いっせい地方選挙後に成立を狙っている『戦争立法』など、自衛隊が世界中に出かけて戦争ができるように準備しているのではないか。なぜ、日本国民は、あんな人を総理大臣にさせてしまったのか。20年前ならとつくに内閣が吹っ飛んでいるような言動を許しているマスコミや社会に対して厳しい批判の声が聞かれます。同時に、こんな時だからこそ共産党に頑張ってもらいたい。」

ぜひ市議選でも2議席確保してくださいと励ましの受けました。来週は市議選が告示になります。何が何でも勝ちぬぐために頑張り抜きますので、よろしくお願い致します。

### 訂正とお詫び

先週号の国保料の記事で説明不足でした。上段左から8行目下段を『一般会計から法定外繰入を一定額しています。が、保険料を引き下げるため一般会計からの繰入を求めてきました。網走市では「公平性に欠く」との理由から保険料の引き下げをしません。』に訂正してお詫びします。

## 流水

子ども医療費助成制度が全国の自治体にひろがり、47都道府県すべてで実施になりました。と赤旗で紹介されていた。新婦人などの市民団体が50年近く前から全国で働きかけてきた成果だ。▼網走でも昨年度から中学生まで入院が無料になり、さらに通院もと希望がひろがっている。▼ずいぶんかかったなあ、とも思う。「子どもが病気の時お金がなくて医者にかかれないことのないように」と市の担当者何度も交

渉した時も共産党の議員さんがそばにいてくれた。署名を集めて共産党議員に紹介議員になってもらい請願を議会事務局に届けた時は事務局職員が「たくさん集まりましたね」と笑顔で受け取ってくれた。▼「紹介議員にはならないが大切なことなので応援します」と言ってくれた他の会派の議員もいたが委員会傍聴した時ひと言も発言しなかったなあ。▼市議会も国会も紹介議員がいなければ市民の切実な声も議会に取り上げてもらうことすらできない。私たち市民の声を議会に届ける議員がいなかったらどうなっていたか、と時々思う。子ども医療費だけではない。憲法や原発の問題も同様▼私たちの声を届ける議員がいなかったら?現に安倍政権の支持基盤である日本会議の地方議員連盟のメンバーが多数をしめる自治体では改憲、慰安婦否定などの意見書が採択され、日本会議本体の活動も活発化し、改憲の意見書や請願採択の働きかけを本格化させる、と意気込んでいます。▼うかうかしてはいられない。私たちの選んだものが国の行方が決まるのだから(た)